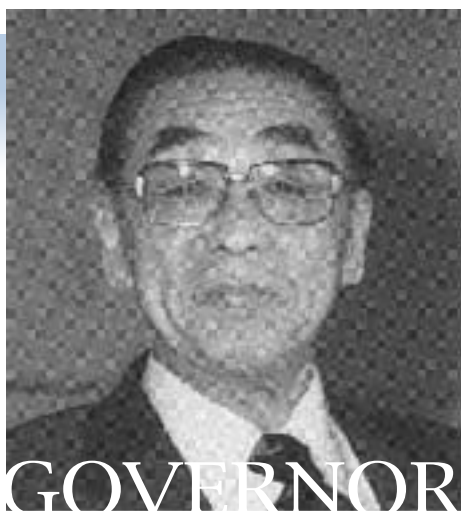




函館北斗L.Cの誇り 「2名の元ガバナー」

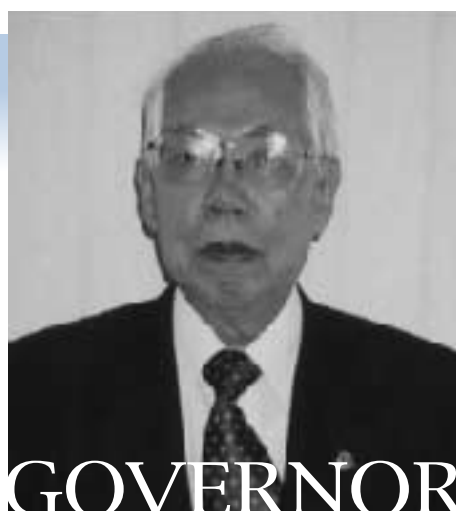


GOVERNOR

故 元ガバナー L 加藤 進一

1975~1976

ライオンズクラブ国際協会 302E-C地区
第22回地区年次大会



GOVERNOR

331-C地区名誉顧問 L 熊野 志郎

1990~1991

ライオンズクラブ国際協会 331-C地区
第37回地区年次大会
331-C アクティビティースローガン
「心の鏡磨いて奉仕 豊かな社会」

温故知新

歴史のあゆみ

●1975年(昭和50年)

- ・地区ガバナーにL加藤進一就任
- ・新幹線、東京-博多間全通
- ・ベトナム戦争終わる
- ・日本の首相は三木武夫
- ・流行語「あんたあの娘のなんなのさ」
- ・輪島功一が世界チャンピオンになる
- ・ビール大瓶180円、セブンスター150円

●1976年(昭和51年)

- ・第22回302E-C地区 年次大会
- ・北海道331地区となり 331-A、-Bの2地区に分かれる
- ・ソ連ミグ25戦闘機が函館空港に強行着陸、乗員が米国に亡命
- ・東京地検がロッキード事件で田中角栄前首相を逮捕
- ・流行語「記憶にございません」
- ・モントリオール五輪開催
- ・食パン100円

歴史のあゆみ

●1990年(平成2年)

- ・331-C地区ガバナーにL熊野志郎就任
- ・自主流通米の初入札「きらら397」の人気急騰
- ・日本人の平均寿命が男75.91歳、女81.77歳で世界記録更新
- ・東西両ドイツが分断後、41年ぶりに統一
- ・日本の首相は海部俊樹
- ・渡る世間は鬼ばかり放送
- ・流行語「バブル崩壊」

●1991年(平成3年)

- ・第37回331-C年次大会
- ・北洋サケ・マス漁の旧母船式独航船26隻が函館から出港
- ・自衛隊発足以来初の海外派遣
- ・多国籍軍がイラク攻撃開始
- ・ソ連連邦消滅宣言
- ・大相撲若貴人気
- ・畑山世界フェザー級チャンピオンになる





チャーターメンバーとしての想い



私も、もうあと1ヶ月で齢78歳を迎える。永い人生とは未だ言えないが、ライオンズ人生43年を経た。あと7年をL.Cと共に闘ってゆけば、私の人生の大半はL.Cと共にあったこととなるであろう。半世紀(50年)は長いようで短かった。まだまだやりたいことは山程ある。言うなれば、私の社会的人生は函館北斗L.Cと共に生まれ、函館北斗L.Cと共に育ってきたと言っても過言ではないと思う。私自身は半世紀の間にほこりにまみれ、肉体は老化の一途をたどっているようだが、私の気持ちはまだまだ闘いに燃えている。一方、北斗L.Cは他のL.Cに対し誇れるほど立派に育った。会員数は一時隆盛の時より半数程に減ったが、メンバー皆元気で、明るく、団結力の強い組織となった。私はチャーターメンバーとして、L.Cに現存していることを誇りに思っている。有り難うメンバーの皆さん。

さて、我が函館北斗L.Cは今から43年前の1961年12月6日、函館L.Cのスポンサーにより、40名の創立会員をもって、五島軒本店にて発会式が行われた。チャーターメンバー40人は皆、初めてのL.Cメンバーであり、他のL.Cからの移籍会員は一人もなく、創立の手続き・運営に関しては非常に苦労した。当初の一年間は毎晩の様に、当時の函館駅前の宮城屋ホテル(現ハーバービューホテル地)に集まり、L.C国際協会会則規則集を学習したものだ。英語のまじったL.C用語には苦労した。コンサイス大英和辞典を持ってきて、開いてみても、何としてもL.C用語独特の和訳が出来ない。ある例会で今は亡き沢田L.(外科医)などは「俺は初代のテールツイスターだが、何をやるのかサッパリ判らない。辞書を引いたら「テール」とは尻尾のこと。「ツイスター」とは腰をひね廻したりする運動のこととあった。俺の役目はシッポが無いから腰を振り回してメンバーから金を引き出すことだな。」と笑って腰を振りながらファイブ・ドネーションを集めたものだ。またある例会では、今は亡き津村L.(津村造船社長)は、「俺は毛唐のクラブを作るつもりはない。日本のクラブなのだから用語はすべて日本語で言え。」と発言し、それに対し他のメンバーは、「賛成だ。日本独自の会則を作るべきだ。その基本は教育勅語である。」と危ない発言が飛び出したり、ケンケンガクガクの例会だった。それでも相対立することなく、最後には盃を片手に、肩を組みながら、ウイ・サーブをした思い出が目に浮かぶ。この様な例会における自由な意見の交換の様子を見て、他のL.Cのメンバー(函館L.C・函館東L.C)などは、「これはすごいクラブが出来た。まさに「荒野の素浪人」(当時評判になった映画の題名)の集まりだ。」と言われたものだった。

この様な若さと勢いと行動力にあふれた我がクラブはアクト(行動)においても函館市民をアッとさせるような事ばかりやった。発足翌年の函館港祭りの時期(1962年7月2日)に第一回チャーターナイトを行ったが、式典は大沼でやり、パレードは共愛会館(現函館中央郵便局)前から旧丸井デパート(現十字街)まで、函館公園から借りてきたライオンの子供を檻に入れて台車に乗せ、ボーイスカウトと一緒にそれを引いて歩いたユニークなデモ行進だった。棒デパートの屋上には、巨大な「函館北斗L.Cチャーターナイト」のアドバルーンを揚げ、プラカードを持ったボーイスカウトを先頭に、L.C独特の帽子をかぶり、片手にライオンの檻を引く綱を、多くの市民の励ましを受け、恥ずかしそうに歩く姿は、まさに翌日の新聞を賑わす一幅の和やかな絵のようだった。そして我々はチャーターナイト記念事業として「世界交通標識展示会」を開催した。警視庁よりの資料をもとに道警外5団体の共催で、世界27カ国及び日本交通標識、事故統計表、白バイなど17点を展示し、見学児童にもものさし、下敷き、風船などをあげ、1週間の入場者数1万人を記録した。

それから以後は破竹の勢いで数々のアクトを新しいアイディアのもと実施してきた。当時、日本は3年後の東京オリンピックを控え、経済・文化共に世界に向けてアピールしようと、行け行けどんどんの勢いがあった。しかし反面未だ戦後の傷跡深く、白衣を着た傷痍軍人の物乞い姿や、公共の収容施設(共同宿泊所・民生寮・児童収容施設等)に収容されねばならぬ貧困な市民が多く、矛盾に充ちた社会だった。この様な状況の中では我々L.Cのボランティア活動は非常に意義があった。我々の日常生活の生き甲斐にもなっていたと思う。1.貧しい人々に対するボランティア活動(施設の訪問、協力、援助等)、2.教育的観点からの児童援助、少年スポーツの育成、3.無医村地区に対する医療活動、4.地域の文化活動などを40年間数多く実施してきた。そして、これらの行動を共にする中から私は多くの友人・同志を得た。私の人生の財産でもある。

しかし、振り返って今の世界・日本の現実を見たらどうだろう。世界中いたるところで戦争は絶えない。何が原因であろうと人間の生存を否定する戦争は最悪の行為だ。確かに日本は豊かになった。終戦時の食べ物も何もない焼け野原から59年間の血のにじむような努力によって、世界で2番目の経済大国と言われるようになった。街には車があふれ、世界中の物・文化があふれ混在している。金さえあれば欲しい物は何でも手に入る。しかし果たしてこれが幸せな社会なのか疑わざるを得ない。毎日のように新聞紙上を賑わしている友人・夫婦はもちろんのこと親子・兄弟に至るまで残虐な殺し合い、騙し合いは、之が人間のすることなのかと目を覆いたくなる。恐ろしさと、怒りで胸を締めつけられ、そして人間不信が増大してくる。まさに世紀末の様相だ。そこには我々L.Cが常にうたっている「自由と平和を愛し、共に助け合い、共に生きてゆく」精神はみじんも見られない。こんな社会の中でL.Cの存在価値は何だったんだろう。我々の長期にわたるアクト(行為)は何の役にも立たなかったのだろうか?悩まざるを得ない。あるメンバーはいう。「そんなにむずかしく考える必要はない。とにかく我々は地域住民の求めていることをやればいいのだ」と。しかし、本当にそれでよいのだろうか。我々の力で出来ること出来ないことがある。そして、又空手形で期待を裏切ることになってはいけない。又、地域の人々の要望が必ずしも良き社会を創ろうとする方向を目指しているとは限らない。このような何が善で何が悪なのか判らんような混乱・変化の激しい社会の中では、「良き社会」を創るためには、その本質をしっかりとらえる必要がある。しかし、その「良き社会」の本質とはむずかしい。昔、少しかじった哲学上の相対立する用語を使わせて頂ければ、その本質は「ロゴス(理性)?」なのか、パトス(情念)?なのか?「物質なのか、精神なのか?」或いはそれらをアウフヘーベン(止揚)したものなのか?私には解らない。しかし、互いに解らない同士が、この問題について話し合っていくうちに、おぼろげながらその答えは解ってくるのではないだろうか。ぜひ話し合ってみよう。

なんだか長々と小理屈を延べさせてもらい本当に申し訳ないが、最後にこれだけは言っておきたい。今、世界も日本も重大な混乱の岐路に立っている。こんな時こそ、我がL.Cの社会的存在意義が益々重要になってくるはずだ。我々L.Cに与えられた使命も又大きい。地域の人々、日本の人々、世界の人々と一緒になって汗を流そうではありませんか。



L. 後藤次夫

コラム ちょっと一息!

COLUMN

私の一期一会

L.石黒哲三

「百冊の本を読むより百人の人と逢え」とのことわざがあるが、それぞれの人生でどれだけの人との出会いがあるであろうか。若く活力に満ちた青年時代や充実した豊かな感性と自信に満ちた壮年期、思慮深く完成された熟年期、それぞれの世代での貴重な出会いがある。

今や大女優になられた浅丘るり子(写真1)、石原裕次郎との共演の映画「夕陽の丘」は函館がロケ地、我が愛車VWで大沼公園をドライブした懐かしい思い出が甦る。未だ現役の名脇役で活躍中の北村一夫(舞台・テレビ俳優)とは幾度か夜の大門で杯を交わした。既に鬼籍に入られた大映時代劇の黄金スター市川雷蔵、勝新太郎は大映京都撮影所で所長から紹介され、両者が真剣を使用の殺陣「田村」の強烈で華麗な世紀の舞台の感激は今だ忘れることができない。



▲(写真1)浅丘るり子さん



▲(写真2)小森のおばちゃま

映画評論家の小森のおばちゃま(写真2)。ミス・エールフランスから松竹のニューフェイスにスカウトされた当時の可愛い岩下志摩と青函連絡船上で記念撮影。函館出身の女優叶和貴子、歌手淡谷のり子ともお酒を共にさせて頂いた。マヒナ・スターズの和田弘は大学の一年先輩、カルガリー冬季五輪スピードスケート銅メダリスト(現・西武ライオンズ球団代表)黒岩彰(写真3)は大学の後輩。地元選出代議士の後援会で福田赳夫(のちの内閣総理大臣)や、小泉内閣を財務大臣で支えた塩爺こと塩川正十郎(当時当選2回の若手議員)を司会者として紹介した貴重な体験をもさせて頂いた。東映の大川博元社長とは同郷が新潟県と云う事で話が咲き、昭和30年代のアメリカで日本レストラン紅花を大成功させ、大富豪となったロッキー青木が昭和40年代に東京六本木でスポーツクラブを経営、取引先の関係で紹介され、小生もこの会員として上京の折に利用した。ハローキティのサンリオの辻信太郎社長には、取引実績国内20傑に推挙され、アメリカ市場視察旅行のご褒美を頂き、アメリカの小売業、大型店、シネコン等の実体を早くに見聞できた。



▲(写真3)黒岩 彰

ライオンズクラブのキャビネット幹事時代には全国に多くの知遇を得ることができ、当時の1990～1991年度国際会長ウィリアム・L・ビックス(写真4)にも親しくご挨拶させて頂いた。多くの出会いから刺激や感動を受けた人生の意義と交友の尊さを追憶し、いま痛感している。我が家の古い名刺簿や写真箱をさらに鋭意整理中である。

(いずれも敬称を略させて頂きました) ▲(写真4)ウィリアム・L・ビックス国際会長



チャレンジ精神!弁護士ライセンス取得

この度、高齢にもめげず弁護士という難関に立ち向かい、見事弁護士の資格を取得なされました橋立ライオン、合格おめでとうございます。この快挙は函館北斗ライオンズクラブの誇りだと思えます。本年4月1日より「個人情報保護法案」が施行されます。これに伴い各企業・事業所など、まだまだ個人情報の法整備が確立されていないのが現状です。会員皆様方の心強い相談者が出来たことは喜ばしいことと思えます。第二の職業「橋立弁護士法律事務所」のご活躍にエールを送りたいと思えます。



第1036回

新年会&お祓例会

2005年1月19日 PM6:30
場所/五島軒本店

NEW YEAR

▶国際会長感謝状贈呈(永年在籍)
右/L丸山長郎
左/L後藤次夫



●酉年会員●

昭和 8年 L.早瀬徹朗
昭和20年 L.桶本建郎
昭和32年 L.久保龍治
L.横内一範



新入会員ごあいさつ

L.白川博康

自分の生まれ育ったこの町を、もっと住みやすくするにはどうしたらいいのか、頭では思っても行動には出ませんでした。ライオンズ入会後の高丘寮の訪問で、自分でも出来ることがあるとわかり充実した一日を過ごすことができました。これからもこういうことをコツコツできたらいいなと思います。

今後ご指導のほどお願いいたします。



新入会員ごあいさつ

L.永野秀晴

この度は伝統かつ誇りである「北斗ライオンズクラブ」に入会させて頂き光栄に思っております。私も通勤族にとって、その土地の環境はとても重要であり、またその土地の方々とのふれあいはかけがえのないものであります。自然、気候風土、歴史、美味等々どれを取っても素晴らしいこの函館の地での生活を「北斗ライオンズクラブ」の皆様方との交流を通じて、さらに充実できればと思います。不慣れな面もありご指導いただく点多々あると思いますが、今後ともよろしくお願ひ致します。



新入会員ごあいさつ

L.鈴木明

一月一日付けで「函館」勤務を命ぜられ「長崎」より10日に着任致しました。当日大雪の為、千歳空港より陸路函館に向かう事になり、もしかして歓迎されていないのでは？と、家内と顔を見あわせましたが、JALから振り替え切符が渡されると聞いて「只」で小旅行が出来ると良い方に切り替わった男です。函館で今以上に街の活性化に少しでも寄与できればと考えております。宜しくお願ひ致します。



第24回 高丘寮慰問レクリエーション 2004年11月6日 AM10:00~ アクティビティ



▲慰問お礼の挨拶を述べる寮生代表三好エ子さん



▲山矢第一副会長挨拶



▲レオクラブ生徒達の人形劇

11月6日(土)今年も恒例の救護施設・函館厚生院高丘寮で慰問アクトが行われました。会場では手際よく焼きそばを寮生分調理し、シュウマイ400食、いなり・のり巻き200食、ジュース等を振る舞いました。また、会場ではレオクラブによる人形劇やゲーム・輪投げ・尻相撲など会員と一緒に楽しい一日を過ごしました。

函館北斗ライオンズクラブ X'mas家族会 2004年12月15日 五島軒本店 PARTY



▲木村会長挨拶



▲金子実行委員長祝杯



▲アトラクション・引った先の商品は何?



▲余興/未来の北斗L.C.の姿?



▲サンタさん入場



▲競り勝ちオークション
また逢う日まで合唱▶



▲永遠の友



▲閉会挨拶&ローア

函館北斗ライオンズクラブ主催

第28回

少年武道大会



参加
武道

- ・少林寺拳法
- ・空手道
- ・柔道
- ・剣道

参加
選手

小学校
高学年生徒

☺皆で目指そう!!

平成17年3月27日(日)
函館市民体育館/午前8時30分

アクティビティ
100%出席

後援/函館市教育委員会・函館新聞社・北海道新聞函館支社・毎日新聞函館支局・NHK函館放送局・HBC函館放送局
STV函館放送局・HTB函館支社・UHB函館支社

L 澤田 正二郎

市場にデジタルカメラが普及されて4、5年が経過していますが、毎年、毎回撮影の度に悪戦苦闘の日々を送っております。つくづく撮影の難しさを痛感しております。

現場の生の雰囲気を描きしようと必死にシャッターチャンスを探しますが、なかなかその瞬間が来ず、帰宅してパソコンと向き合っている間に日々反省の日でした。

ただ私の記録がクラブの発展と、後世に役立つことがあれば幸いです。

これからも奉仕活動をしていくみなさんの、元気な姿を撮り続けていきたいと思っております。



函館北斗ライオンズクラブ ライオンズクラブ国際協会331-C地区 第1R 第2Z

■事務局/〒040-0064 函館市大手町5番10号 ニチロビル2F TEL.0138-26-5558 FAX.0138-27-4686

■会長/L.木村公二 ■幹事/L.福田雄二 ■会計/L.佐藤憲司
 ■創立日/1961.12.6 ■例会日/第一・第三水曜日 ■例会場所/五島軒駅前支店



函館北斗ライオンズクラブ <PR・会報・IT委員会> L.和田善助・L.横内一範・L.澤田正二郎・L.石黒哲三